

般若岳の靡看板取替と滝川辻の非常用品に日覆い設置

◇実施日… 2021年6月20日(日) 晴

◇参加者；沖崎吉信、児島道夫、乾克己、山川治雄、岩本信行
梶野照雄、村吉光夫 7名

昨年5月に設置した般若岳の靡看板の文字が剥がれていることが判り、村吉さんにそのことを伝えると、早速新しい看板を作ってくださいました。20日に持経宿に入って取替に行くことと連絡があった。児嶋さんも、滝川辻の非常用品が夏の日差しで高温になることを心配して、覆いを取り付けに行くという。



白谷林道入り口で



持経宿に到着



落石を除けながら

ちよūdい具合に同じような場所でも一つの事案が重なったので、同時に二つをこなすことになった。

午前8時20分、白谷林道入り口の広場に着くと、全員が揃っていた。沖崎、山川、村吉の3台で持経宿に向かう。白谷林道は5月に通った時とさほど変化はなく50分で持経宿に着いた。



登り始める



奥駈道に合流



乾光門

沖崎、村吉両氏を持経宿に残して沖崎車と山川車の2台で林道を北に向かう。先年5月、般若岳と地藏岳に靡看板を設置した際に林道から乾光門に登ったが、今回も同じルートを利用する。林道は殆ど車が通っていないので落石が多数で、駐車地までに10回位停車して落石を排除した。

去年通過に苦労した大きな倒木は撤去されていた。登りだして約50分で奥駈道に出る。児嶋さんと乾さんはテープを付けながら、10分ほど遅れて到着した。

乾光門を通過し、約20分で滝川辻に着いた。12時前だったので昼食とした。食後、非常用品置き場のメンテナンスを児嶋、乾両氏にお任せして、梶野、山川、岩本の3名で般若岳に向かった。



滝川辻



般若岳の靡看板交換



20分ほどで般若岳に到着。工具を出して取り付けナットを緩める。ボルトが少し錆びていて、外すのに少し時間がかかった。新しい看板にボルトを付けて杭の穴に差し込んでみる。新しい看

板のボルトの位置が5mmほど広く、そのままでは入らなかった。ヤスリで上下の穴を広げて何とか差し込むことが出来たが、上側のボルトを差し込みすぎたため、下側のボルトが入らなくなってしまった。ボルトを叩いたり、古い看板を隙間に入れたりで何とか外し、上下のボルトを均等に叩いて穴に差し込んだ。

下側のボルトはナットがすんなり付いたが、上のボルトは外す際にハンマーで叩いたため、ボルトの山が変形してナットが回らない。

小さなヤスリがないかと探したが、ヤスリは10mmの丸ヤスリしかない。釘が数種類あったので釘の頭をボルトの溝に入れてハンマーで軽く叩いた。少し場所を移して数回叩いたら変形していたボルトの山が少し元に戻った。ナットをpushさえてゆっくりレンチで回す。半回転くらいでナットはボルトに嵌り、靡看板の取替は終了した。今後、このような取替の必要が生じた場合は、穴をあげ直すためのドリルや、サビたボルトを緩めるための油などを準備する必要がある。



般若岳の靡看板交換

滝川辻で

滝川辻に戻って休憩、非常用品置き場は以前にも増して嚴重に覆われていた。文字が消えて読めなかった滝川辻の標識に乾さん自作の新しい標識が取り付けられていた。午後1時20分、写真を撮って下山を始める。乾光門から林道までは40分だった。昼食時と下山しての2回、コジマカフェが開店した。

山川車が先行で持経宿に戻る。水場の少し手前で乾さんが左前輪のパンクに気づく。4輪駆動車は一輪のパンクは判りづらい。舗装路ではないので走行音の変化にも気付かなかった。車体が重いのでジャッキアップに手間取り、15分ほどロスした。水場のホースを掃除して持経宿に戻った。



駐車地堰堤の銘板

大きな倒木があった場所

残りの木杭

村吉さんは平治宿水場径改修用の杭20本を平治宿まで運ばれて今日は持経宿に泊まり、明日もう一度平治宿へ杭を運ばれるそう。沖崎さんは倉庫の大掃除で大量の不用品を出しておられた。見つからなかった10リッターのガソリン缶も見つけたそう。村吉さんに後を託して白谷林道をR425へと向かう。朝と同じ50分でゲートに到着、それぞれ帰宅した。

(記：梶野)

行動タイム

白谷林道ゲート 08:30→09:20 持経宿→09:30→10:08 ケー4
堰堤 10:15→11:16 奥駈道→11:23 乾光門→11:50 滝川辻 12:15→12:38 般若岳 13:00→13:18 滝川辻→13:41 乾光門→14:18
林道→14:22 ケー4 堰堤→15:20 持経宿 15:30→16:20 白谷林道
ゲート

